はにゅう　もり
羽生の杜

コミュニティひろば　羽生の杜
はにゅうコミュコミュ　始めます！

わたしは、ずっと「自由に生きる」ことを心に掲げて歩いています。わたしが思う「自由に生きる」とは、誰にも、何ものにもしばられずに生きるということです。わたしが歩こうとする道に何かがあれば、蹴散らしてゆくというふうに歩いています。けれども、ひとりで蹴散らすことができないときもあります。そんなときは、いつも仲間が助けにきてくれます。仲間が、ひとりで蹴散らせないときは、みんなで助けにゆきます。そんなふうに、生きています。

けれども、周りをみていると「自由に生きる」ことを忘れてしまったひと、「自由」を「勝手なこと」と思い込んでいるひと、自由に好き勝手に生きたいのに生きられないひとがたくさんいます。お金がなかったり、ひとりぼっちだったり、何かにしばられて動けない気持ちになっていたり、理由はいろいろあるのだろうと思います。「コミュニティひろば羽生の杜：通称・はにゅうコミュコミュ」は、そんなふうに生きずらいなあと感じていたり、ひとりでは解決できないモヤモヤを抱えている、あるいはちょっとおしゃべりがしたいだけ、静かに考えごとをしたい人、いろんな人らが集まって、それぞれの思い思いのやり方で時間を過ごして、何かを取り戻せる場所にしたいと考えています。そして自分なりの「自由」を見つけられたらよいと願っています。「自由」とは、自然に降ってくるものではなくて、自分でつかみ取るものです。ひとりで出来なければ仲間と一緒に、つかみ取ればいい。そんなふうな居場所が「はにゅうコミュコミュ」だと思ってください。

チャールズ・ブコウスキーというアメリカの作家がいます。もう 20 年以上前に死んでしまいました。彼の小説の多くは社会の底辺に生きるひとを描いてきました。詩人でもあるかれ自身の生きるスタイルは酒を傍らに創作を続けてようやく生きているというもので、この羽生の杜を生かそうと決めた小田原紀雄さんに似ています。かれの翻訳された『勝手に生きろ！』という小説があります。英語のタイトルは *Factotum* です。「雑用係」というほどの意味です。訳者あとがきに「彼が目指したのは嘘の否定である。生活の現実から離れたきれいごととしての文学もそうだろうし、社会を成り立たせるための常識もそうだろう」と書かれています。この感覚は、わたしが思う「自由」にとっても近いと感じています。「はにゅうコミュコミュ」は自由な空間であり、自分の中のウソを捨て去って本当の自分を発見する場所であり、そしていつまでもいる場所ではなくて、自分なりの自由を見つけたら「勝手に生きろ！」と背中を押されて旅立っていく場所でもあるのです。もちろん、気に入ってくれたら、いつまでもいてくれていいのです。いろんな生き方を探してゆけばいいのです。あなたなりの居場所を、ここで作って、探して、見つけてください。扉を開いて、待ってます。

NPO 理事長　兼　雑用係：星山京子

子どもたちに森の遊び場・学び場を②

創刊号からはや３カ月が経ちましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？　館林と熊谷の間にある羽生の杜では、スタッフも汗にまみれ子どもたちとの暑い熱い夏を過ごしました。

○おいでよ！はにゅうの森

前回にもお伝えした夏休み・特別企画のご報告です。10 月オープンの下準備として、まずは子どもたちを通して羽生の杜の魅力を伝えるべく、森の遊び場・学び場を全 11 回で開催しました。午前は宿題をし、畑の有機野菜入りの昼食をとり、午後は森で存分に遊ぶプログラムで、地域の 4 小学校から 17 名の登録がありました。

○いったい、何がおもしろいのか？

市外からのスポット参加や最終日に来た子以外は、全員がリピーターとして複数回来てくれました。そのリピーターさんご家族に口コミの発信源となっていただけたわけですが、そもそも何がおもしろくてやってくるのか。子どもたちの様子に加えて、立ち話やアンケートなどから確認できたのは、やはり“森でのダイナミックな自然遊び”の魅力です。沢山用意した遊びの中で特に人気だった遊びをご紹介すれば、その所以もご理解いただけるかと思います。

・長ブランコ

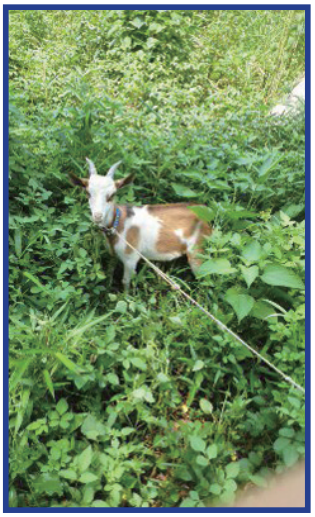
ヤギがいるなら当然必要！「アルプスの少女ハイジ」も愛用していた空まで届くアレです。森の巨木があるからこその一品です。ロープが長いので公園のブランコとは桁違いの振れ幅がウリです。年配スタッフが乗ると背中に若干の哀愁が漂いますが、大人の方にもお楽しみいただけました。

・ハンモック

近隣の方にはお伝えするまでもなく暑い夏。けれども森の木陰は入るだけで１～２度涼しく感じられます。最初は子どもたちもまったりと昼寝をしていたのですが……。揺らす幅が日々に増大してゆきました。ハンモックは意外にもアクション性の高い遊具なのです。

・魚捕り

キャッチ＆リリースが前提なので、魚釣りではなく魚捕り。池にペットボトルの仕掛けを放り込むと小魚やザリガニが沢山捕れます。それが予想以上に子どもたちの遊び心を捕らえました。いったい何が面白いのでしょうか。魚捕りはそもそも面白いものですが、出来上がった遊びではなく、自分たちで簡単に仕掛けを工夫してゆけるのが楽しさのキモなのです。自分たちで遊びを発展させる余地というのは、子どもが育っていく鍵の一つでもあります。



・ヤギ＆子ヤギ

遊んであげているのか、はたまた遊んでもらっているのか。ヤギもまた人気を博しました。野菜くずを持って見学に来る方もいる、羽生の杜の営業部長です。ヤギは子どもたちが思い描くほんわかした印象とは異なり、興奮すると走って頭突きをしてきます。しかし危険だから小屋に隠すというのではなく、どうすれば安全にヤギと触れ合えるかを考えることこそ、自然の学びの醍醐味でもあります。

○これからのこと

秋以降は、週末に芋ほり（焼き芋）のイベントなどを行いながら、冬休みの企画を温めてゆきます。大人の方もその機会にどうぞ羽生の杜へ遊びにいらして下さい。

また、これらの活動と平行していわゆる“不登校”の子どもの居場所づくりの支援を開始いたします。詳しくは次号でお伝えいたしますが、ご近所にお悩みの方がおられましたら、どうぞ当 NPO をご紹介ください。

伊早坂貴宏（いそさかたかひろ・スタッフ）

イベントの予定

◆ 10 月 24 日（土）午後 1 時～ 3 時半　**芋ほり**

◆ 10 月 31 日（土）午後 2 時～ 4 時

おもしろパズルで遊ぼう！　「数独（すうどく）」の（株）ニコリ　鍛冶真起（かじまき）さん

◆ 11 月 21 日（土）午前 11 時半～　**収穫祭り！バーベキュー大会♪**

◆ 12 月以降の予定

●落語を愉しむ　噺家　立川志らべさん

●講演会　高齢者社会に向き合う　講師：星旦二（ほしたんじ）さん（首都大学東京客員教授）

杉野輝（かがやき）、ド素人　野良仕事日記

にゃんこもいます
右：コスモス　左：エイリアン

9月を迎えてから、羽生の畑も春・夏野菜から秋・冬野菜への移行を始めています。トマトやキュウリなどの果菜から根菜や葉菜へと、畑の作物は変わっていきます。ズブの素人が書物や地元人の助言を頼りに泥縄式でひたすら実践していく毎日に、それでもだいぶ慣れてきました。

基本方針として「農薬･化成肥料の不使用」があり、それによって畑に起こるいろんな現象を楽しく眺めてながら作業をつづけています。ときには病虫害に悩ませられることもありますが、そういった現れにはきっとなにかしらの原因があり、探していけば突きとめられるのではないかと思います。

まだまだ作業効率は悪く、個々の野菜の完成度も低いものですが、日々畑に出ている中でつらつらと考えることもあり、徐々にこの地の畑が向かうべき姿が見えてきているように感じる近頃です。

秋からは、人参、大根、キャベツ、レタス、ホウレンソウ、小松菜、ハクサイ、春菊、にんにく、玉ねぎなどを育てていきます。土や風の内にも四季の匂いはあるようで、天気のいい日は陽の光と混ざってとても気持ちのよいものです。羽生畑の初年度後半も楽しみです。(2015/09/29)

賛助会員になってください

NPO 法人「羽生の杜」の活動が少しずつ動き始めました。戦争前夜のような世になり、暮らしの格差は膨張し続けています。しかし不安に生きるより、何もないことこそが力であることを信じて、勇気と希望を共に携えて活動を続けてゆきます。とはいえ、活動には最低限の資金が必要です。私どもの働きにご賛同くださる皆さまに、賛助会員になっていただきたくお願い申し上げます。この小さな活動をお支えください。また、寄付も随時受け付けております。

年間　個人：1 口　5,000 円（1 口以上）　団体：1 口　10,000 円（1 口以上）

振替口座名義：特定非営利活動法人　羽生の杜

振替口座番号：00130-0-419749

特定非営利法人「羽生の杜」
理事長：星山京子

イベント、カフェ等に関するお問い合わせは、電話・FAX：048-538-4585
スタッフ：伊早坂（いそさか）＆杉野　までお気軽にどうぞ！
絵本、木製玩具等、おうちで眠っているものがあれば寄付をお願いします。